

旭

印刷を支え加工を活かす

工場本部 瓜破工場 断裁 玉岡 和範

旭紙工株式会社に中途入社して以来、約20年にわたって経験を積み上げてきた玉岡和範さん。瓜破工場では、主に断裁業務を担当しています。玉岡さんの仕事で気をつけていることや印象に残っている出来事、この先目標について伺いました。



「まず、入社に至った経緯と、現在担当している業務について教えてください。」

前職は、NTT関連の通信設備工事に携わっていました。当時手がけていたのは、電線を張ったり、ビルの電話線を繋げたりといった力仕事です。約2年間勤務した頃、突然会社が倒産。次の就職先を探していたところ、橋野社長と知り合いだった義父からの紹介を受け、旭紙工へ入社する運びとなりました。

それから現在に至るまで、ずっと担当してきたのが断裁の仕事です。印刷物や、その他の紙類を扱っています。

「転職後、前職との違いから戸惑ったことはありませんか。」

前職の通信設備工事は、屋外での作業がメインとなる仕事です。季節や天候に大きく左右され、過酷な環境で作業をしなければならぬ案件がほとんどで、「屋内で仕事をしたかった」とは常々思っていました。

ところが、いざ工場勤務をし

また、プライベートな目標としては、再婚を目指して頑張っていたけれど思っています。

様々な経験を通じて、成長してきた玉岡さん。今後もその忠実な作業内容と確かな技術で、旭紙工のさらなる成長に貢献していくに違いありません。



のならないように心がけています。印刷加工を河川に例えると、断裁の工程は上流にあたるもの。下流へいくにつれて施されていく「折り」や「中綴じ」にうまく繋げなければならず、私がミスをしてしまえば、後工程に多大な迷惑をかけてしまいます。たった一か所の切り間違いで、取り返しのつかない事態に陥るケースもあるのです。そうしないためにも、指示書は隅々まで目を通し、作業への理解を深めるようにしています。

「これまで携わってきたお仕事の中で、最も印象に残っているものについて教えてください。」

しばらく前になるのですが、折り紙を作る仕事に携わった時のことが印象に残っています。会社としても初の仕事で現場にノウハウがなく、とても戸惑ったものです。断裁は、通常なら「紙を断裁し、後工程に渡して終わり」という業務内容がほとんどですが、この折り紙に関しては、断裁後に重ねて糊を塗るところまでを担当しました。慣れない作業だった上に糊の配合がうまくいかず、四苦八苦。

「最後に、今後の目標についてお聞かせください。」

作業効率を上げて仕事に取り組みたいと思っています。無駄に残業をせず、定時時間内にしっかりと業務を終わらせることが目標です。



てみると、屋内には屋内の大変さがあるのだと身をもって知りました。工場では同じ場所にとどまり、ほとんど動かずに作業をしなければなりません。外で動き回っていた前職との違いに戸惑い、入社当初はストレスを感じることもありましたが、業務に取り組むうちに、屋内の環境にも慣れていきました。

「仕事をする上で、特にどんな点に気をつけていますか。」

製品によって、規格や切り方が異なります。そうした作業内容について詳しく書かれているのが「指示書」です。業務を開始する前に、必ずその指示書をよく読み、見落

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績



設備紹介

—ハイデルベルク①—

瓜破工場自慢の
ハイデルベルク社のラウンドフィーダ。
1日あたり約35~36万回も紙を折ることができるそうです。
今回は寺山さんに機能や注意点、ラウンドフィーダの
やりがいなどをお伺いしました。皆さん必見です!

私が紹介します!



てらやま こうさく
寺山 幸作さん
工場本部 瓜破工場 課長

1時間で
MAX2万回

Q.どのような機械なのでしょう?

9台あるこの設備は、断裁したのち、紙を折る専門です。A3の紙を二つ折りにするのは、1時間でMAX2万回!紙の種類や大きさにも様々な対応ができ、A1~A5サイズまで、ポスターにも使います。その中でも糊綴じのできる機械が2台あることが自慢。糊綴じによって、単価の安い、付加価値のある商品を作り、他にはない仕事ができます。

糊綴じとは、製本の方式の一つです。紙を折る段階で、折り目となる箇所には糊をつけ、針金や糸を使わずに閉じることができます。リサイクルに適していることからエコ綴じ製本と呼ばれることもあります。

長年の相棒

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか?

20年以上前からになります。私が入社する前です。糊綴じのできる機械は、入社して、数年たったころにきました。約17年前です。長い期間、部品を交換し、大切に使ってきました。

免許は不要!

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか?

必要ありません。しかし、危険な機械であるため、新入社員の方々もすぐに触れるのではなく、研修期間が設けられています。期間は人によって異なりますが、作業を見て任せられるのかどうかを判断します。経験者でもこの機械で怪我をすることがあり、私も実際に経験しました。気を引き締めて作業することが必要です。

人数と配分

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか?

私含めて6人です。1台につき1人必要というわけではないため、6人いれば十分作業できます。現在は、1人で2~3台を担当しています。

期待の若手

Q.その中で最も「頑張っている方」は?

福田 侑介(ふくだ ゆうすけ)さん
一生懸命な姿が印象的です。2020年から研修期間に入り、現在は、糊綴じを頑張っています。そろそろ覚えてきた頃ではないのでしょうか。周り比べてずば抜けて上手というわけではありませんが、これからに期待しています!

回転に注意

Q.使用上での注意点はどこでしょうか?

紙をセッティングするときです。常に動いている中で、紙を置き、ローラーを調節します。一番集中しなくてはいけない作業で、気を抜くと怪我のもととなります。

スムーズな作業

Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか?

機械を止めることなく、作業できたことです。スムーズにできたときは、1時間に1万回転。しかしいつもスムーズにできるわけではありません。セッティングが悪かったときはすぐに紙の載せ方だけで、止まってしまうことも……。これは作業者の力量にかかっています。

稼働率アップ

Q.今後の目標

機械が止まることなく、作業を進め、稼働率を上げていくことです。そのためには、セッティングをきちんとすることや、作業者が作業しやすい環境を整えることが重要です。1人で複数台を担当していると、どうしても止めなくてはいけないときがでてきてしまいます。そうならないために周りがフォローできるかどうかこれが今後の課題です。

